

令和4年度 高校生の 税に関する作文 入賞者

国税庁が募集する「税に関する高校生の作文」には、敦賀税務署管内の高校生から771点の作品が寄せられました。ご応募ありがとうございました。

- 敦賀税務署長賞
「税への考え方の違い」 高橋 一史 (福井県立敦賀高等学校3年)
- 敦賀税務署長賞
「私たちができること」 早田 弥生 (福井県立敦賀高等学校2年)
- 敦賀税務署長賞
「税が存在する意味」 澤田 千穂 (福井県立美方高等学校1年)

税への考え方の違い

敦賀高等学校 3年 高橋 一史

私は最近、「消費税二十五パーセントでも文句が出ない国がある。」といった記事を見た。初めてこの記事を目にしたとき、私はとても驚いた。なぜなら、日本に生まれ、今までずっと日本で生活してきた自分にとって、消費税率二十五パーセントはあまりにも高いと感じたからだ。数年前、日本で消費税の税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられたとき、税率引き上げに対して多くの批判の声があがった。当時の自分も世間と同様に税率の引き上げに対して不満を抱いていた。だからこそ「消費税二十五パーセントでも文句が出ない国がある。」という記事を初めて目にしたとき、私はとても驚いた。

「消費税二十五パーセントでも文句が出ない国」とはデンマークのことである。

私が最初に抱いた疑問と驚きは記事を読み進めるうちになくなっていった。なぜなら、デンマークでは、医療費、教育費、介護費、出産費などを全て国が負担していると知ったからだ。もちろん金額の大小は、政府からの援助に関係しない。これはまさに、「ゆりかごから墓場まで」の支援だ。これほどの手厚い社会保障制度があるがゆえに国民が消費税二十五パーセントに対して文句を言わ

ないのだと理解した。

ここで一つの疑問が生まれた。それは「なぜデンマークではあれほど高い税率に文句が出ないのに、対する日本では税に対して多くの批判的な意見があげられるのか。」というものだ。この疑問を解決するために、インターネットで税について調べてみたり、自分で考えてみたりした結果、自分なりの一つの結論が出た。

それは「日本では、国民の多くが税金の使われ方について理解していないから。」というものである。税金の本当の使い道を知らなかったり、税金の恩恵を実感していなかったりするからこそ、批判的な意見が出ると考えた実際にデンマークの多くの人は、税の使われ方を日々の生活で実感している。だからこそ、デンマークでは税に対して批判的な意見が少ないのではないかと考えた。

私は、日本人が税に対してもっと肯定的になるには、国民一人一人が税に対して十分な知識を得ることが重要であると考えた。だからこそ、政府はもっと税の使われ方を国民にアピールするべきだし、国民も自分たちで税について調べ十分な知識を得ることが大切だと考えた。

私たちができること

敦賀高等学校 2年 早田 弥生

私たちは税金を常日頃払っている。その税金は道路や上下水道などの社会資本の整備、教育や医療などの公共サービスの提供のために使われており、私たちの生活を支えてくれている。私はこのような使い方以外の使い方に注目する。

一つ目は、犬や猫の殺処分に対する税金の使い方だ。私たちは殺処分という言葉あまり聞くことがないと、身近な事ではないと思っている。けれど殺処分の現状は良くない。二〇二〇年度には、犬四〇五九匹、猫一万九七〇五匹が殺処分された。

この数でも今までで最小だった。しかしこの殺処分にも税金は使われている。

犬や猫などの動物たちを自分たちが払っているお金で殺してしまっているのだ。

このことを踏まえ、私は提案する。

それは殺処分をゼロにするために動物を保護し育てる施設に税金を使うことだ。

いろんな団体が税金を動物を殺すために使うのではなく生かすために使ってほしいと願っている。

私たちの生活のために税金を使うのももちろん良い事だが小さな命を救うことの方も大切なことなのではないだろうか。

二つ目は、児童虐待に対する税金の使い方だ。二〇二一年には、児童虐待の疑いで児童相談所に通告された

十八歳未満の子供は十万八千五十人で過去最多であった。私たちがよく知らないだけであって身近に起こっていることなのである。

児童虐待にも種類があり、身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトの四つである。

こうした虐待を受けて育った子供たちは非行に走ったり、人間関係をうまく築けなかったりすることがある。私はこういった子供たちを支援する施設にもっと税金を使うべきだと思う。子供たちはこれからの未来を担う若者であるのだから。

またその児童虐待の加害者である親への支援にも税金を使うべきだ。

なぜならそういうことをする親が当然悪いが、親もかって虐待を受けていたのかもしれないからである。

親たちが悩みを打ち明けることができる施設が必要である。

そのような施設を作ることが児童虐待も減り、子供が死亡するケースもなくなるはずだ。

税金はもっとこのようなことに使われるべきだと思う。

最後に私は税金とは命を救う役割を任っていると思う。

どんな命でも大切にしなければならない。

その命を救うために税金を払うことは悪いことではない。だから私は税金が命を救い続ける限り、払っていききたいと思う。

税が存在する意味

美方高等学校 1年 澤田 千穂

税金と聞くと、大人が「せっかく入った収入も所得税に取られて素寒貧だ。」と言っていた事や、テレビで芸能人が脱税をしたり、政治家が国民の税金を私欲の為に使っていたりしたというニュース等が思い浮かぶ。それと同時に税金とは遠い存在であるように感じられた。今回、この作文を書くにあたって中学時に習った税金の基本的な知識よりも深いところまで探究し、社会の一員として社会の仕組みを知ることを目標とする。

まず調べたのは、「税金のそれぞれの役割」だ。税金には課税主体に着目した分類の国税と地方税があり、税負担を経済活動のどの局面に求めているかに着目した分類の所得課税、消費課税、資産課税等がある。例えば、所得税、消費税、相続税はそれぞれ国税で上から所得課税、消費課税、資産課税である。まず所得税の役割は、主として所得の再分配と財源調達である。つまり、政府が財政政策や金融政策を行うために必要な財源を確保すること、および政府が徴収した税金を高所得者から低所得者に分配して所得格差の是正を行うことである。世の中には、企業を立ち上げて成功し、巨額の富を手に入れた人がいれば突如会社が倒産しホームレス生活を余儀なくされたり、低賃金で不満な環境での労働を強いられる人など、様々な人がいる。このような不平等を少しでもなくすために所得税はあるのだ。次に消費税の役割は、社会保障関係費の中で、年金、医療、介護、少子

化対策の費用に充て、利用することである。もし、この世から医療や介護などの施設がなくなってしまったとすると怪我や病気が絶えず、やがては年老いてしまう私達は十分に生きることすら出来ないかもしれない。普段私達が買い物をする時に定価よりも少し高い値段で物を買っているのは私達が当たり前前の生活を保てるようにする為なのである。次に相続税の役割は、資産の再配分である。被相続人が相続について決定していた場合

、それぞれの相続人に分割する分が異なるケースがある。その場合財産の価格が高くなるほど税率が上がる累進税率を適用することで役割を果たしている。このように消費税のように全員同じ税率ではなく、価額によって税率が変わるようにして相続税は平等に納められるようになっている。

これらの様々な種類の税より、私ば「税が存在する意味」について考えた。日頃ニュースを見ている戦争や自然災害、未曾有の感染症など日々不安にさせられるが、その中でも変わらない生活を行えているのは税の存在があってこそではないだろうか。この激動の時代の中、この先は何が起こるか分からない。だからこそ脱税をしたり、私欲の為に税金を使うなどの身勝手な行動は避けた方が良かったら。今必要とされているのは「蹴落とし合い」ではなく「助け合い」なのだ。それが税が存在する意味である。